

事務事業ID
0405

令和 5 年度

事務事業評価シート

令和 5 年 9 月 14 日作成

(令和 4 年度実績)

事務事業名	広域生活バス路線維持支援事業			<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画登載事業	<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略登載事業						
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な生活環境の創造 0 4			事業期間		予算科目				
	施策名	交通・港湾物流ネットワークの充実 1 6			区分		会計	款	項	目	
	基本事業名	公共交通網の整備・充実 0 4			単年度繰返		01	07	01	01 0600	
根拠法令	-			※期間欄に開始年度を記入		期間		事務事業区分			
所属	部課名	商工港湾部企業立地港湾課			【開始年度】 - 年度～		A 政策事業				
	課長名	富澤 武弥									
	係名	交通通信係	電話	0192-27-3111							
担当者	今野 宏	内線	120								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
<p>近隣の市町を結ぶ広域生活路線バスの運行維持を支援する補助事業で、バス運行事業者が路線ごとに決算した結果、赤字額が生じた場合に、赤字額相当分を県と路線のある自治体が応分の負担割合により補助金で補填するもの。</p> <p>当市には、細浦経由高田線と大船渡住田線の2路線があり、このうち、細浦経由高田線に赤字補填してきたが、当該路線はJR大船渡線BRTと重複運行している区間であることに加え、利用者の減少により路線の維持が困難となつたことから、路線の在り方についてバス運行事業者及び陸前高田市と検討を進めた結果、令和4年12月29日に路線が廃止となった。</p>						総投入口量	事業費内訳	国庫支出金			
			都道府県支出金								
			地方債								
			その他								
			一般財源								
			事業費計(A)				0				
	人件費	正規職員従事人数									
		延べ業務時間									
		人件費計(B)					0				
		トータルコスト(A)+(B)					0				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
・細浦経由高田線の路線廃止に係る関係者協議及び廃止に伴う広報周知。	ア 県生活交通対策協議会の開催回数 回
・広域生活路線バスの利用促進PR活動。	イ 広域生活路線バス乗降者調査回数 回
・バス事業者への補助金交付事務。(令和4年10月～12月分は陸前高田市と大船渡市で負担)	ウ 市広報等へのダイヤ改正等のお知らせ 回

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	名称 単位
バスの運行事業者 (細浦経由高田線【県補助路線】、大船渡住田線(旧中井線)【国補助路線】)	力 助け対象バス事業者数 社
	キ

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- 円滑に運行してもらう。
- (バス路線を)維持してもらう。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

利用者の利便性に配慮して運行する。

(2) 総事業費・指標等の推移

総入量	事業費	財源内訳	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)
			単位	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	都道府県支出金	千円	1,453	1,453	1,453	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,454	1,454	1,980	0	0	0	0
	事業費計(A)	千円	2,907	2,907	3,433	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	1	1	1	0	0	0	0
	延べ業務時間	時間	200	200	200	0	0	0	0
	人件費計(B)	千円	800	800	800	0	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,707	3,707	4,233	0	0	0	0
⑤活動指標	ア	回	1	1	1	1	1	1	1
	イ	回	1	1	1	0	0	0	0
	ウ	回	1	1	1	1	1	1	1
⑥対象指標	力	社	1	1	1	1	1	1	1
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	%	100	100	100	0	0	0	0
	シ	路線	1	1	1	0	0	0	0
	ス	路線	1	1	1	1	1	1	1

事務事業ID	0405	事務事業名	広域生活バス路線維持支援事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?

平成14年の道路運送法の改正に伴う規制緩和により、路線退出が許可制から届出制に移行されたことに伴い、不採算路線の廃止が行われるようになったことから、地域住民の貴重な生活交通機関である路線バスを存続させるため開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定期と比べてどう変わったのか?

- マイカー利用の増加、人口減少・少子化の進展により乗合バスの輸送人員は急減し、高齢者や生徒などのいわゆる交通弱者が利用主体となつたことと、規制緩和によって、不採算路線の廃止が加速度的に行われるようになった。
- 細浦経由高田線については、平成27年度から県単独補助(1/2)となっていたが、JR大船渡線BRTが重複して運行していることに加え、利用者の減少により路線の維持が困難となつたことから、令和4年9月で県単独補助が終了となった。その後、令和4年10月～12月まで陸前高田市、大船渡市で負担して運行を継続したもの、令和4年12月29日をもって路線廃止となった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

- 交通弱者と呼ばれるマイカーを使用できない人たちの交通手段である路線バスを廃止することは、地域社会の生活基盤の確保が妨げられ、過疎化に拍車をかけることから、市民等から路線の存続が求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	① 政策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかず?意図することが結果に結びついているか?	高齢者や、学生・生徒などマイカーを利用できない、いわゆる交通弱者と呼ばれる人たちの生活基盤の確保につながっているが、BRTと並行して運行していることから、見直しの余地はある。	
	② 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容
有効性評価	なぜこの事業を当市が行わなければならぬのか?税金を投入して、達成する目的か?	路線バスは、交通弱者と呼ばれる人たちの日常生活における貴重な足として無くてはならない公共交通機関ではあるが、BRTと並行して運行していることから、見直しの余地はある。	
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容
	対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	近隣の市町を結ぶ広域生活路線の不採算路線を運行するバス事業者が対象で、円滑な運行とバス路線の維持してもらうことを意図しており、対象・意図をこれ以上限定または追加することはできないことから妥当である。	
効率性評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容
	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	経常損益に対する補助金額の割合が100%のため、向上余地がない。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容
公平性評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	BRTを利用してもらうことにより、移動の足の確保は可能であるが、バス停ではなくBRT駅までの移動手段など、新たな交通手段(デマンド交通等)の確保が必要となる可能性がある。	
	⑥ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容
	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	国庫補助要件から外れた路線(細浦経由高田線)への補助(県1/2、市1/2)をしているが、BRTと並行して運行しているため当市における必要性は低く、補助金廃止の方向で検討していく必要がある。	
効率性評価	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できできないか?(アウトソーシングなど)	現在の事務は、必要最小限のものである。	
	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容
公平性評価	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっていないか?	市内に関わるバス事業者は、地域の生活基盤路線の確保のため、経営努力を図りながら運行を継続している。	

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
3 終了・廃止・休止	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成 果</th> <th>向 上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>維 持</th> <td></td> <td>X</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低 下</th> <td>X</td> <td>X</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成 果	向 上				維 持		X		低 下	X	X		細浦経由高田線については、令和4年12月29日をもって路線廃止となった。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成 果	向 上																								
	維 持		X																						
	低 下	X	X																						

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
3 終了・廃止・休止	細浦経由高田線については、令和4年12月29日をもって路線廃止となった。 路線廃止後は、末崎地区住民のBRT駅までの移動手段など、地域・交通事業者等と協議し、新たな移動手段の確保に向け検討していく必要がある。